

—— 平成の職人技 総結集 ——

高野山奥之院生身供

唐櫃奉納

(一社) 日本伝統職人技術文化研究会

理事長 上野幸夫



【細部意匠】

- ① 基本設計 先人の築いた国宝や重文の工芸品を参考にしつつ、平成の高度の職人技を結集し弘法大師さまのお食事を運ぶにふさわしい唐櫃を目指しました
- ② 実施施工図意匠 強度や摩耗等を考慮し各職種の職方が分かるように原寸図を作成しました
- ③ 材料 伊勢神宮神宝材と同じ樹齢 300 年以上の最高級の天然桧材で作られています
- ④ 鋸 唐櫃制作のために縦、横、斜め等全方向に切れる専用の鋸を作りました
- ⑤ 木工事 箱部分の組手は華やかで最高度の組手技法の菊天秤の逆になっています
- ⑥ 組子 格狭間内側の花形組子は一本の釘も使わず組み上げてあります
- ⑦ 彫刻 四種の密教法具を木材の中で最高価な香木のインド産本白檀で彫られています
- ⑧ 漆塗り 蠟色塗りの担い棒は木地を強化するため寒冷紗を包帯状に巻き下地が作られています
- ⑨ 螺鈿 0.1 ミリのあわび貝を宝相華唐草紋に型切りして漆にはめ込み蠟色仕上げにしてあります
- ⑩ 鍔金具 宝相華という仏教上の花を一枚の銅板から切り出して作られています
- ⑪ 金箔 卵と稲わら炭を使い出来た名塩和紙に挟み打ち出された縁付け五毛色の金箔です
- ⑫ 彩色 鬼板の彩色はいつまでも変色や退色のしない岩絵の具を使い、纏綯彩色が施されています
- ⑬ 屋根檜皮葺き 檜の樹皮を竹釘で止め、それを重ねて葺いた日本独自の格調高い屋根です
- ⑭ 飾房 屋根下にさがる飾房は赤く染めた正絹の紐を格調高い菊結びに仕立てたものです
- ⑮ 奉書紙 芳名を記した奉書紙は人間国宝九代岩野市兵衛氏による強さとしなやかさを備えた耳付き越前生漉き奉書紙です

